

ワーキングホリデーが無事終了しました。時間とエネルギーをかけて準備したものが、あっという間に終わったような気がします。素晴らしいプロジェクトでした。

お知らせ

- ・ 益子陶芸作品展即売会 9月1日(土)～3日(月) 草志舎
- ・ アメニティ・アカデミー「ヴォーリス建築再見」9月8日(土)
関西学院
- ・ コウノトリの郷との交流 9月15日(土) 豊岡市
- ・ 園遊会 9月29日(土) ヴォーリス六甲山荘

予告1**益子焼展示即売会～東日本大震災共生プロジェクト**

栃木県にある益子参考館はこの度の震災で大きな被害を受け、その修復には8千万円かかると予想されています。

そこで私たちは東日本大震災共生プロジェクトの一つとして、陶芸作品展を開催することとしました。

これは益子の陶芸作家たちが作品を寄付し、その作品を売ったお金を参考館に寄付するものです。作品は食器類がおもで、市価よりお安く提供出来る予定です。どうぞこの機会に益子焼きの作品をお求めください。

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをご覧ください。

月日 9月1日(土)～3日(月) 場所 草志舎

なお会期中は喫茶もいたします。販売と喫茶のスタッフもよろしく願いいたします。

「ヴォーリス六甲山荘物語」発刊!

お待たせしました。とうとう発刊されました。情報も写真も豊富な充実の内容です。これを読めばあなたも六甲山荘の通です。ぜひお求めください。価格 1000円 お送りも可能です。

**【コラム】****益子参考館と浜田庄司**

清水 彬久

東日本大震災共生プログラムとして、9月1～3日の3日間草志舎において益子参考館再建のための益子焼チャリティ即売会を開催します。この活動は、栃木県民芸協会の呼びかけで、益子焼の作家・生産者から寄贈された作品を販売することで、その純益を益子参考館再建資金に充てようと企画されました。全国では沖縄に続いて、関西が二回目となります。

この益子参考館は、陶芸家浜田庄司が作陶活動の拠点とした邸宅兼工房を、自作品とコレクション作品を展示し、彼の業績を顕彰する記念館として運営されてきています。しかし、東日本大震災では栃木県の益子町は余り報道されませんでした。益子焼にとって登窯の倒壊による生産活動停止、流通在庫の壊滅と甚大な被害を受けました。そのなかで益子参考館も例外でなく、建物や登窯の損壊、コレクションの破損等自力再生不能な状態となったのです。益子町の復興には、益子焼の生産活動の再開であると同時に、町のシンボルの益子参考館の再建が欠かせないものでした。そこで栃木県民芸協会が中心となって益子参考館再建のために目標90百万円の募金活動を推進されていきます。今回その主旨に賛同した益子焼の作家・生産者による寄贈作品の販売会が実現したのです。

浜田庄司(1894～1978)は、近代日本を代表する陶芸家で、民芸陶器で人間国宝となり、文化勲章受章者でもあります。彼は、東京高工、京都陶磁器試験所で研鑽し、1920年にはバーナード・リーチの影響で、渡英しコンウォールのセントアイヴィスに築窯します。英国ナショナルトラストの旅で訪れましたが、今でも陶芸の盛んな町として有名です。帰国後は、一時沖縄壺屋窯で作陶しますが、栃木県益子を終生の地として選び1931年農家を移築した土地に登窯を築きます。彼の作風は、釉薬の流描による力感のある模様を得意としています。それは、「生活する民衆の心」を表現したもので、それをリーチは「知性ゆたかで、しかも素朴な日本人のたくましい誠実さ」と評しています。彼は、晩年作陶する心構えとして、「形は轆轤に委(まか)せ、絵付けは筆に委せ、焼くのは窯に委せ、——焼物でも作ったというより生れたというような品がほしい」と述べ、そこに人為性よりも自然の尊さに美を求めるおおらかな浜田の世界を創りだす作陶精神を見出します。

このようにして培われた彼の芸術は、柳宗悦が主宰する民芸運動に共感し、河井寛次郎、バーナード・リーチ等と共に中心メンバーとなって活躍していくなかで形成されていったものです。この流れを汲む益子焼の生活に根差した作品を益子参考館の再建のためにお手許で使ってみたらいかがでしょう。

ご報告1

神戸ワーキングホリデー2012 7月30日(月)～8月2日(木) (3泊4日)

すばらしいプロジェクトでした。会員ではない学生たちが主役というのは当協会として初めての企画です。打ち合わせを重ね、準備したおかげで成功裡に終わることができました。これを機会にあたらしい人の繋がりができるとうれいすね。

はるばる福島から来られたのは6名の学生、迎えるこちらの学生スタッフは実行委員、ボランティアあわせて18名。ペンガラ塗りの作業、宝塚歌劇観劇、六甲山上散策、人と未来防災センター訪問、神戸の街散策、夜には交流会、ゴスペルの夕べと盛りだくさんのメニューをしっかりとこなしました。

実行委員長の前田豊稔さんをはじめ、当協会のスタッフは29名、のべ63名が作業、生活の支援、送迎にあたり、学生たちの活動をささえました。また寄付もたくさんいただきました。このような力仕事のプロジェクトが開催できたのも、皆さまのご協力のおかげです。ありがとうございました。

また8月1日付けの神戸新聞にも写真入りの記事が掲載されました。



オルゴール館



記念撮影

ペンガラ塗り



石窯ピザを楽しむ



川上盾牧師のゴスペルの夕べ



予告2

コウノトリの郷との交流

豊岡市のコウノトリを野生に帰す活動は地元の方々の根気づよい努力によって順調に進んでいます。特にコウノトリ郷公園の周辺の農家の方々が無農薬有機農法を実践することで、コウノトリの餌となる生き物がふえ、それがコウノトリの野生化を支えているのです。私たちはその「コウノトリ育む農法」のリーダー的存在である啜さんとおつきあいをしてきましたが、今年も啜さんと一緒に農業体験として稲刈りをします。

月日 2011年9月15日(土)

場所 豊岡市立地域農業管理施設(豊岡市祥雲寺字土橋)

参加費 1,500円

詳しくは同封の案内チラシ、あるいはメールでご案内します。そちらをご覧ください。

ご報告2

アメニティ・アカデミー「ヴォーリズ建築再見」7月14日(土) ヴォーリズ六甲山荘

ヴォーリズ六甲山荘を舞台に、石田忠範さんが失われたヴォーリズの作品、特に小寺邸と室谷邸について、写真を駆使しながら、無念の思いをこめて話されました。写真を見るだけでも二つの建物がいかに魅力的だったかが想像でき、それを失った悔しさを実感するとともに、ヴォーリズ六甲山荘を守っていく意義と責任をあらためて感じました。

当日の昼食は希望者に山荘自慢の石窯ピザをふるまい、また前日と当日の夜には宿泊もしていただきました。

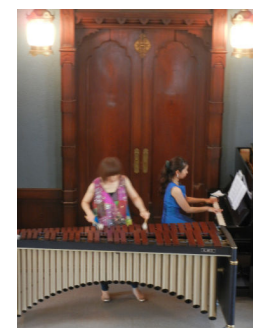


ご報告3

ワーキングホリデー支援コンサート 7月21日(土) 芦屋仏教会館

楽しいコンサートでした。マリンバはゆたかな響きの木琴楽器で、耳になじんだ曲が新しい表情で演奏されるのは新鮮でした。安永早絵子さんはマリンバだけでなく、いろいろな珍しい打楽器を次々と演奏していただき、「もの」を叩いて音を出し、リズムをきぎむ楽しさを満喫しました。

参加者95名 収益と募金箱への寄付はワーキングホリデーの開催費用にあてられました。



予告3

園遊会

今年も園遊会をヴォーリズ六甲山荘で開きます。音楽とお茶を楽しみながら、山荘でのひとときをゆっくり味わっていただく企画です。今年はおなじみに QJQ カルテットに登場していただき、軽快で楽しいジャズを演奏していただきます。

月日 2012年9月29日(土)

参加費 1,500円(コーヒー/紅茶+ケーキつき)

ランチには石窯ピザをご用意いたします。(要予約)

当日のスタッフもどうぞよろしくお願ひします。詳しくは後日ご案内いたします。

◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

第3回 ヴォーリズ勉強会〈肥後橋・大阪教会〉

福富牧子

四ツ橋筋を西に入ったところに、総煉瓦作りで90年の長きにわたって時代をくぐり抜けてきた立派な教会があります。

山形先生に歴史や設計図でいねいに解説していただき、見学に移りました。

大正11年(1922年)築。鉄骨&煉瓦&コンクリートの3階建て。礼拝堂は2~3階部分。サイドにそびえる塔の高さは80m。屋根は木造洋瓦、外壁総煉瓦張り、内壁半煉瓦張りアーチ壁との2重構造はロマネスク様式。今までに、火事の飛び火や戦争・震災などの大きな被害を受けながらも見事によみがえっています。煉瓦は特徴あるフランス積みで、90年の時がかもした風合いのすばらしいこと! まれにみる美しさと評判の煉瓦壁だそう。御影石組みの玄関を入ると両脇に2階の礼拝堂に向かう階段があり、ヴォーリズならではのゆったりとした動作を演出。礼拝堂に入ると、講壇に向かってゆっくり下っていく板張りの床や、講壇からは波紋のように美しく広がる曲線を描く木製のベンチにも感動です。このベンチは置

き場所に合わせてカーブした一枚板で作られ、建物と一体となって重厚感を醸し出していました。見上げれば堂々とした梁がトラス構造で屋根を支え、総板張りの切妻屋根の裏面や大きな木製バラ窓(白霞ガラス)、どれも素晴らしいものでした。岡村牧師自ら演奏して下さったパイプオルガンの素朴な音色が広がり、ヴォーリズならではの工夫と心配りで設計された建物は、自然であたたかい雰囲気をつくり出していました。小さな個人住宅でも同じ感覚をおぼえるので不思議です。

山形先生のやさしい語り口にヴォーリズを思い、一柳満喜子園長先生のお姿を克明に記憶された、園児でらした岡村牧師様のお話を伺えたことも貴重でした。

何より修復時には 歴史的なものと調和をはかりながら、原形をとどめるために大変な苦心と配慮がなされていることに感銘いたしました。



六甲山荘たより

7月の六甲山荘

7月前半は霧につつまれる日が多かった山荘ですが、梅雨があけると早速にカナカナが鳴き出しました。訪れた人は皆さん涼しいですねとひと息いれられます。木立に囲まれた山荘は記念碑台あたりに比べても涼しいのです。スタッフの仕事をしていても、汗をかくこともなくさわやかです。夏別荘の醍醐味です。

またワーキングホリデーでのベンガラ塗りにそなえて、外壁の水洗いをしました。壁面はもちろん軒裏までほこりや苔を洗いおとしてすっかりきれいになりました。作業に参加の皆さま、ご苦労さまでした。



募金のご報告～～6月に次の方々から募金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

***六甲山荘ナショナル・トラスト募金**

《6月合計 84,000 円 2012 年度累計 165,400 円》

<事務局スタッフから一言> 宇高 尚子さん

六甲山の麓で育ち結婚と同時に神戸を出て外の世界を家族と共にくらぶして数十年。帰ってきたのがやはり神戸でした。そして今六甲山荘が根城の「アメニティ」に参加して、知っているようで知らない六甲山で過ごす日々。新鮮です。

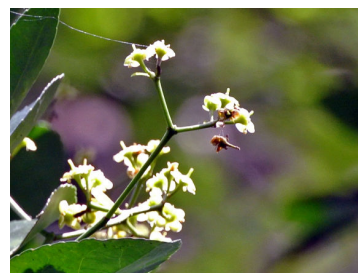
家具作りが趣味だった私が、たいしたことはまったくできないけれど、家の造作にかかわれるのも嬉しいかぎり。生まれ変われば手に技能を持った職人かヴォーリス氏のように広い意味のデザイナーになればいいなあ・・・



ヴォーリス六甲山荘の花～マサキ

マサキ、漢字では栂と書きます。もともとは日当たりのいい海岸部に自生する常緑樹ですが、鳥に運ばれてどこにでも、ほの暗い林の中でもしっかり根を下ろすそうです。根性がありますね。

写真は勝手口を出たところにある木で、7月に白い地味な花を咲かせます。秋には赤い実をつけますのでお楽しみに。



写真・岡本正美